

多次元の確率分布と独立性

樋口さぶろお <https://hig3.net>

龍谷大学工学部数理情報学科

確率統計☆演習 L07(2020-11-09 Mon)

最終更新: Time-stamp: "2020-11-06 Fri 16:32 JST hig"

今日の目標

- 同時分布から周辺分布, 母期待値, 母共分散, 母相関係数が計算できる 岩薩林 確率・統計 §3.3
- 確率変数の独立性を判定し利用できる 岩薩林 確率・統計 §3.3



L06-Q1

Quiz 解答:離散的な確率変数の母平均・母分散・母標準偏差

- ① 母期待値 $E[e^X] = \frac{4}{12} \cdot e^{-1} + \frac{5}{12} \cdot e^0 + \frac{3}{12} \cdot e^2$.
- ② 母平均値 $E[X] = \frac{4}{12} \cdot (-1) + \frac{5}{12} \cdot 0 + \frac{3}{12} \cdot 2 = \frac{1}{6} (= \mu)$.
- ③ 母分散 $E[X^2] = (-1)^2 \cdot \frac{4}{12} + 0^2 \cdot \frac{5}{12} + 2^2 \cdot \frac{3}{12} = \frac{4}{3}$.

$$V[X] \stackrel{V1}{=} E[X^2] - \mu^2 = \frac{47}{36}.$$

別解:

$$V[X] = E[(X - \mu)^2] = \frac{4}{12} \cdot (-1 - \frac{1}{6})^2 + \frac{5}{12} \cdot (0 - \frac{1}{6})^2 + \frac{3}{12} (2 - \frac{1}{6})^2 = \frac{47}{36}.$$

- ④ 母標準偏差 $\sqrt{V[X]} = \sqrt{\frac{47}{36}}$.
- ⑤ 確率 $E[I_{[X \leq 1]}(X)] = \frac{4}{12} \cdot 1 + \frac{5}{12} \cdot 1 + \frac{3}{12} \cdot 0 = \frac{9}{12} = \frac{3}{4}$.

L06-Q2

Quiz 解答:確率変数の変換

$$E[X^2] \stackrel{V1}{=} V[X] + E[X]^2 = 13.$$

- ① $E[-X^2 + 2X - 3] \stackrel{E2}{=} E[-X^2] + E[2X] + E[-3] \stackrel{E3}{=} -E[X^2] + 2E[X] - 3E[1] \stackrel{E1}{=} -13 + 2 \cdot 2 - 3 \cdot 1 = -12.$
- ② $V[-2X - 3] \stackrel{V2}{=} (-2)^2 V[X] = 36.$

ここまで来たよ

6 離散型確率変数

7 多次元の確率分布と独立性

- 2次元の確率分布
- 母共分散
- 確率変数の独立性

2つの離散型確率変数の同時確率分布

高校 数学 B 岩薩林 確率・統計 p.56

例 6枚のカードから無作為に1枚引く. ♡7 ♡8 ♡9 ◇8 ♠9 ♣9

2つの離散型確率変数の同時分布

$X =$ 数, $Y = 0$ (赤札), 1 (黒札) とすると (x, y) を得る確率は2変数の確率関数で書ける. 同時分布, 結合分布, **joint distribution** という.

$$p(x, y) = \begin{cases} \frac{1}{3} & ((x, y) = (8, 0)) \\ \frac{1}{6} & ((x, y) = (9, 0)) \\ \frac{1}{3} & ((x, y) = (9, 1)) \\ \frac{1}{6} & ((x, y) = (7, 0)) \\ 0 & (\text{他}) \end{cases}$$

表で書いた方がまし. ここでは, 「他」は省略.

岩薩林 確率・統計 では, p_{xy} とも.

$P(X = x, Y = y)$ とも. $P(\text{条件})$ 型の表記.

$y \backslash x$	7	8	9	計
0	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{6}$	
1	0	0	$\frac{1}{3}$	
計				

周辺分布

確率変数の周辺分布

同時分布 $p(x, y)$ に対して,
 X の周辺分布 $p_X(x)$, Y の周辺分布 $p_Y(y)$ は,

$$p_X(x) = p(x, \bullet) = \sum_y p(x, y), \quad p_Y(y) = p(\bullet, y) = \sum_x p(x, y)$$

要するに 一方を無視した分布. 小計.

岩薩林 確率・統計 例題 3.4(p.57)

$y \backslash x$	7	8	9	計
0	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{6}$	
1	0	0	$\frac{1}{3}$	
計				

同時分布が与えられたときの母期待値は、周辺分布から楽に計算

同時分布が与えられたときの母期待値 岩薩林 確率・統計 (3.16)p.60

$$E[g(X, Y)] \stackrel{\text{定義}}{=} \sum_{x=-\infty}^{+\infty} \sum_{y=-\infty}^{+\infty} g(x, y) \cdot p(x, y)$$

同時分布が与えられたときの確率

条件 $a(X, Y)$ で定まる事象 $\{(x, y) | a(x, y)\} \subset \Omega$ に対して,

$$P(a(X, Y)) = E[I_{[a(X, Y)]}(X, Y)] = \sum_{x=-\infty}^{+\infty} \sum_{y=-\infty}^{+\infty} I_{[a(X, Y)]}(x, y) \cdot p(x, y)$$

(P2)

L07-Q1

Quiz(多変数の確率変数の期待値)

2変数 X, Y の離散型確率分布を考える. 同時分布 $p(x, y)$ が下の表で与えられる.

$y \backslash x$	1	2	3
0	0	$\frac{2}{12}$	$\frac{1}{12}$
2	$\frac{4}{12}$	0	$\frac{5}{12}$

- ① 母期待値 $E[X^2 + e^Y]$ を求めよう.
- ② 母期待値 $E[I_{[XY \geq 2]}(X, Y)]$ を求めよう.
- ③ 周辺分布 $p_X(x), p_Y(y)$ を求めよう.

復習:先週知った, 確率変数 X の母期待値, 母分散についての公式

岩薩林 確率・統計 重要事項のまとめ p. xii

参照 (E_n, V_n の番号は載ってないけど)

2次元の確率分布の母期待値の性質 高校 数学 B 岩薩林 確率・統計 (3.17)p.61

$$E[g_1(X, Y) + g_2(X, Y)] = E[g_1(X, Y)] + E[g_2(X, Y)] \quad (\text{E5})$$

$$\text{特に } E[X + Y] = E[X] + E[Y] \quad (\text{E6}, (3.17))$$

証明

$$\begin{aligned} E[g_1(X, Y) + g_2(X, Y)] &= \sum_x \sum_y (g_1(x, y) + g_2(x, y))p(x, y) \\ &= E[g_1(X, Y)] + E[g_2(X, Y)]. \end{aligned}$$

X だけ, Y だけの関数の母期待値

x だけ, y だけの関数の母期待値は,
下の左辺= **同時分布** で計算しても
下の右辺= **周辺分布** で計算しても
同じ結果.

$$E[g(X)] = \sum_x \sum_y g(x) \cdot p(x, y) = \sum_x g(x) \sum_y p(x, y) = \sum_x g(x) \cdot p_X(x)$$

$$E[g(Y)] = \sum_y \sum_x g(y) \cdot p(x, y) = \sum_y g(y) \sum_x p(x, y) = \sum_y g(y) \cdot p_Y(y)$$

Example (2次元の確率分布の母期待値のよくある間違い)

$$E[g(X, Y)] \neq g(E[X], E[Y])$$

だって, $\sin(\log_x y) \neq \log_{\sin x}(\sin y)$ じゃん.

特に $E[XY] \neq E[X]E[Y]$.

× は, + とは別. (独立でないときは)

Example (2次元の確率分布の母分散のよくある間違い)

$$V[X + Y] \neq V[X] + V[Y]$$

母分散は, 母期待値とは別. (独立でないときは)

ここまで来たよ

6 離散型確率変数

7 多次元の確率分布と独立性

- 2次元の確率分布
- 母共分散
- 確率変数の独立性

母共分散 高校 数学 B母共分散 covariance 岩窪林 確率・統計 (3.19)p.61,(3.20)p.62 X, Y が確率変数で, $\mu_X = E[X], \mu_Y = E[Y]$ とおいたとき,

$$\begin{aligned} \text{母共分散 Cov}[X, Y] &\stackrel{\text{定義}}{=} E[(X - \mu_X)(Y - \mu_Y)] && (3.19) \\ &= \text{岩窪林 確率・統計 (3.20)} \cdots = E[XY] - E[X] \times E[Y]. && (C1, (3.20)) \end{aligned}$$

母相関係数 correlation 岩窪林 確率・統計 (3.22)p.64

$$\text{母相関係数 } \rho[X, Y] \stackrel{\text{定義}}{=} \frac{\text{Cov}[X, Y]}{\sqrt{V[X]}\sqrt{V[Y]}} \quad (3.22)$$

母共分散, 母相関係数の性質

$$-1 \leq \rho[X, Y] \leq 1 \quad (3.23)$$

$$\text{Cov}[aX + b, cY + d] = ac \cdot \text{Cov}[X, Y]. \quad (C2)$$

$$\rho[aX + b, cY + d] = \frac{ac}{|a||c|} \rho[X, Y] \quad (C3)$$

L07-Q2

Quiz(独立と限らない確率変数の母期待値)

確率変数 X, Y を考える.

$E[X] = 2, E[Y] = 3, V[X] = 5, V[Y] = 11, \text{Cov}[X, Y] = 7$ である.

- ① $E[-2X + 3Y]$ を求めよう.
- ② $V[-2X + 3Y]$ を求めよう.

ここまで来たよ

6 離散型確率変数

7 多次元の確率分布と独立性

- 2次元の確率分布
- 母共分散
- 確率変数の独立性

確率変数の独立性

高校 数学 B 岩薩林 確率・統計 (3.14)p.58

独立性

確率変数 X, Y が同時分布 $p(x, y)$ を持つとき, X, Y が独立 (independent) とは, 次の関係が成立することをいう (世の中には, 同値な定義が多数).

$$p(x, y) = p_X(x) \times p_Y(y)$$

X, Y が独立とは,

X, Y が互いに 「無関係」 であること

同時分布が, 周辺分布だけから (積で) 決まっちゃうこと

事象 A, B が独立 $\Leftrightarrow P(A \text{ かつ } B) = P(A) \times P(B)$ 岩薩林 確率・統計 p.40, を確率変数に対して書いたもの.

L07-Q3

Quiz(2つの離散型確率変数の母期待値・母平均値・母共分散・確率・独立性)

離散型確率変数 X, Y の同時分布は次の表で与えられる.

$y \backslash x$	1	3
2	$\frac{1}{7}$	$\frac{2}{7}$
4	0	$\frac{4}{7}$

で与えられる.

- ① X, Y が独立かどうか判定しよう.
- ② 母平均値 $E[X], E[Y]$ を求めよう.
- ③ 母期待値 $E[XY], \text{Cov}[X, Y]$ を求めよう.

L07-Q4

Quiz(2つの独立な離散型確率変数の母期待値・母平均値・母共分散・確率)

離散型確率変数 X, Y の同時分布は次の表で与えられる.

$y \backslash x$	1	3
2	1/12	3/12
4	2/12	6/12

で与えられる.

- ① X, Y が独立かどうか判定しよう.
- ② 母平均値 $E[X], E[Y]$ を求めよう.
- ③ 母期待値 $E[XY], \text{Cov}[X, Y]$ を求めよう.
- ④ 母期待値 $E[X^2], E[X^2Y]$ を求めよう.

岩薩林 確率・統計 例題 3.4(p.57)

X, Y が独立, はラッキー

$x = 1, 2, \dots, 100, y = 1, 2, \dots, 200$ の確率分布を暗記しろって言われたときに,

- 独立じゃなかったら, 100×200 個の数をおぼえなきゃいけない
- 独立なら $100 + 200$ 個の数だけおぼえればいい.

X, Y が独立なときに成立するととてもいい性質 岩薩林 確率・統計 (3.18)p.61

$$E[g_1(X) \times g_2(Y)] = E[g_1(X)] \times E[g_2(Y)] \quad (\text{IE1})$$

$$\text{特に } E[XY] = E[X] \times E[Y] \quad (\text{IE2}, (3.18))$$

$$\text{特に } \text{Cov}[X, Y] = 0 \quad \text{岩薩林 確率・統計 (3.21)p.63} \quad (\text{IC1}, (3.21))$$

$$V[g_1(X) + g_2(Y)] = V[g_1(X)] + V[g_2(Y)] \quad \text{岩薩林 確率・統計 (3.21)p.63} \quad (\text{IC2})$$

$$V[X + Y] = V[X] + V[Y] \quad \text{岩薩林 確率・統計 (3.21)p.63} \quad (\text{IC3}, (3.21))$$

$$V[aX + bY + c] = a^2V[X] + b^2V[Y] \quad (\text{IC4})$$

IC3, IC4 は、独立でなくても $\text{Cov}[X, Y] = 0$ だけで成り立つ。

$\text{Cov}[X, Y] = 0$ は独立の 必要条件 (だが 十分条件 ではない)

一部の証明

$$\begin{aligned} E[XY] &= \sum_x \sum_y xy \cdot p(x, y) \\ &\stackrel{\text{独立}}{=} \sum_x \sum_y xy \cdot p_X(x) \times p_Y(y) \\ &= \sum_x x \cdot p_X(x) \times \sum_y y \cdot p_Y(y) = E[X] \times E[Y] \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} V[X + Y] &\stackrel{V1}{=} E[(X + Y)^2] - E[X + Y]^2 \\ &\stackrel{E6}{=} E[X^2] + 2E[XY] + E[Y^2] - (E[X]^2 + 2E[X]E[Y] + E[Y]^2) \\ &\stackrel{V1, C1}{=} V[X] + 2\text{Cov}[X, Y] + V[Y] \\ &\stackrel{IC1}{=} V[X] + 0 + V[Y] \end{aligned}$$

L07-Q5

Quiz(独立な確率変数の母期待値)

独立な確率変数 X, Y を考える.

$E[X] = 2, E[Y] = 3, V[X] = 5, V[Y] = 11$ である.

- ① $E[(-2X + 3Y)(X + 5Y)]$ を求めよう.
- ② $V[-2X + 3Y]$ を求めよう.

岩薩林 確率・統計 問題 6(p.64)

岩薩林 確率・統計 第 3 章練習問題 2(p.73)

岩薩林 確率・統計 第 3 章練習問題 5(p.73)